

NEWS

01
特集

つながる、ひろがる
九州大学病院の
取り組み

02 新任科長紹介

03 新任看護部長
看護部紹介

04 九大病院トピックス

05 令和6年度第1回
九州大学病院別府病院
市民公開講座を実施しました。

06 九大病院基金へ
ご寄附のお礼

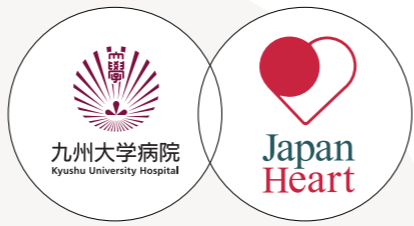


つながる、ひろがる 九州大学病院の 取り組み



医療を世界へ

特定非営利活動法人ジャパンハートと パートナーシップ協定を締結



2024年3月に、特定非営利活動法人ジャパンハートとのパートナーシップ協定を締結しました。

ジャパンハートは、「医療の届かないところに医療を届ける」を理念に国内外で活動する日本発祥の国際医療NGOです。主に東南アジアの発展途上国で、医療の質向上を目指した活動を行っています。

九州大学病院は、2016年以来、ジャパンハートからの依頼を受け、ミャンマーでの小児生体肝移植、カンボジアでの小児がん手術、現地人医師への指導などを行ってきました。

今回のパートナーシップ協定締結により、組織間の連携を強化することが可能となります。今後は、新たに始まるラオスでのプロジェクトのため、本院医師が現地の子ども病院で医療支援活動を行う予定です。



(左から)ジャパンハート 佐藤事務局長、吉岡理事長、九州大学病院 中村病院長、田尻小児外科長、小田病理診断科・病理部長

県内・全国とのゲノム・遺伝医療の連携強化へ 「遺伝医療プロフェッショナルコース」を開講

九州大学病院は2005年に臨床遺伝医療部を設置し、遺伝性疾患の診療に取り組んできました。また、2018年より九州唯一のがんゲノム医療中核拠点病院としてがんゲノム医療に従事しています。

ゲノム医療の加速化、遺伝学的検査の増加により、遺伝専門職である認定遺伝カウンセラーの全国的な人材不足が課題となっていました。

九州大学は2025年度4月に、九州大学大学院医学系学府修士課程(生殖病態生理学分野)に「遺伝医療プロフェッショナルコース」を開講します。

この講座はゲノム・遺伝医療の高度専門の人材である認定遺伝カウンセラーを養成します。

九州では長崎大学、熊本大学に続き3つ目となりますが、2大学と異なり、募集生に医療資格は問いません。

ゲノム・遺伝医療について高度な知識と幅広い視野を持つ認定遺伝カウンセラーを養成することにより、県内、更には全国の遺伝診療連携体制の整備を推進していきます。

認定遺伝カウンセラー Certified Genetic Counselor : CGC

遺伝医療に関わる専門職であり、遺伝カウンセリングを通じて患者さんや家族をサポートする。

◆**遺伝カウンセリング**は、遺伝や遺伝情報の検査(染色体や遺伝子、ゲノムの検査)などについて相談する場

◆**認定遺伝カウンセラー**は、患者さんやご家族の遺伝に関する不安や疑問についてお話を伺い、わかりやすく情報提供をし、意思決定に関するサポートを行う専門職

遺伝カウンセリング

個人情報の管理は？
不安 遺伝する？
心配 ゲノムって何？

家族への影響について、知りたいです。

- 親戚にがんが多い。私や家族もがんになりやすい？
- 私(家族)が遺伝性の病気と言われた。これからどうしたらいい？
- 出生前検査をしたい。
- 私は将来、親や親戚と同じ病気を発症する可能性がある？

問い合わせ先 / <https://genmed.kyushu-u.ac.jp> | kuhgc@med.kyushu-u.ac.jp ※2025年度入学の前期募集は締め切りました

国際連携推進へ 国立台湾大学医学部と協定を締結

2024年2月に、国立台湾大学医学部との部局間協定を締結しました。

国立台湾大学とは2023年から、本学の戦略的パートナーとして連携実績があり、2023年3月に石橋総長らが医学部を訪問したことを契機に、この度の学生交流協定の締結が実現しました。

今後、互いに協力しながら学生の派遣や受け入れを行い、パートナーシップをより一層強化し、国際貢献を推進していきます。



(左から)締結式での赤司医学部長と児(Ni)医学部長



病院視察(国立台湾大学医学部附属病院(外来)の前で)

NEWS 02 新任科長紹介



循環器内科診療科長
阿部 弘太郎

令和6年5月1日付で循環器内科診療科長を拝命いたしました阿部弘太郎と申します。この度、伝統ある教室を担当することになり、その責務と重責を考えますと身の引き締まる思いです。臨床では多様化する循環器診療の中でも高い専門性をもつ循環器内科医を育て、研究では基礎臨床とともに世界にエビデンスを発信できる若手の研究者育成こそが、私の使命と考えております。皆様のご指導と支援を賜りながら誠心誠意頑張りたいと思いますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

主たる疾患

心不全、虚血性心疾患、不整脈、構造的な心疾患（弁膜症）といったメジャーな循環器疾患に加え、肺高血圧症、成人先天性心疾患といった希少疾患などすべての循環器疾患を対象に幅広く診療を行っています。九州唯一の心移植施設として、県外からの重症心不全の受け入れも積極的に行っています。

主たる治療

心不全：心臓リハビリ、心臓再同期療法、機械的循環補助装置など
虚血性心疾患：カテーテルインターベンションなど
不整脈：カテーテルアブレーション、ペースメーカー、植込み型除細動器など
弁膜症：経皮的動脈弁置換術・僧帽弁クリップ術など
肺高血圧症：経皮的バルーン肺動脈拡張術など
成人先天性心疾患：経皮的心房中隔欠損閉鎖術など



別府病院
婦人科診療科長
園田 顕三

大分県内で不足している婦人科の診療体制を整備し、地域医療に貢献する目的で、本年4月から婦人科診療が再開となりました。現代社会において、女性の社会活動はきわめて重要な位置づけとなりました。女性が健康的に社会活動を行えるように、質の高い医療支援が必要です。当院では、健やかで安全な生活に至るがん治療を目指し、女性ヘルスケアを取り入れた診療を行います。専門診療科および多職種と連携しながら、適切な診療となるように取り組んでいきます。病む方に安心して治療を受けていただけるように努力しますので、今後ともよろしくお願いいたします。

主たる疾患

●婦人科一般診療：良性腫瘍（子宮筋腫・卵巣のう腫など）、性感染症 等
●悪性腫瘍（がん）および関連疾患：子宮頸部異形成・子宮頸癌、子宮内膜増殖症・子宮体癌、卵巣癌、外陰・陰癌 等
●女性ヘルスケア：月経困難症・月経不順・更年期障害・性器脱 等

また、セカンドオピニオンにも対応いたします。なお、不妊治療、産科診療（妊婦健診・分娩など）は行いません。

主たる治療

病気の診断に必要な検査を行い、治療を開始します。検査には、入院して行う手術（子宮頸部円錐切除術、内臓全摘術、腹腔鏡手術など）も含まれます。治療として外来での投薬（抗生剤やホルモン剤など）を行う病気がありますが、悪性腫瘍の場合は手術療法、放射線療法、抗がん剤療法の中から適切な治療法を組み合わせで行います。



別府病院
内科診療科長
三苫 弘喜

この度、診療科長を拝命致しました三苫弘喜と申します。令和5年3月で堀内孝彦教授が退官を迎え、令和6年3月に新病院が開院し、当科には大きな変化の波が押し寄せました。歴史ある別府病院の伝統を引き継ぎ、新しいメンバーで全身を診る内科を目指しています。別府市・大分県は高齢化がすすんでおり、複数の疾患を有する患者さんが大半を占めます。循環器、消化器、腫瘍、感染症、リウマチ領域の専門性の高い医療に加えて、総合内科の力で地域のニーズに応えていきたいと考えています。御指導・御鞭撻の程、宜しくお願い致します。

主たる疾患

リウマチ・膠原病
関節リウマチ、リウマチ性多発筋痛症、血管炎症候群、全身性エリテマトーデス、多発性筋炎、皮膚筋炎、強皮症、混合性結合組織病、ベーチェット病、成人発症スチル病、シェーグレン症候群等の自己免疫疾患、遺伝性血管性浮腫など

主たる治療

リウマチ・膠原病
経口抗リウマチ薬、生物学的製剤（抗サイトカイン療法）、標的型合成抗リウマチ薬、免疫抑制剤、副腎皮質ホルモン（ステロイド）等を用いた治療、大量ガンマグロブリン療法、リウマチ性疾患のリハビリテーション、遺伝性血管性浮腫の予防・発作時治療など



別府病院
麻酔科診療科長
瀬戸口 秀一

私が麻酔科に入院した平成5年当時の診療科長である高橋成輔教授のお部屋の入口には、「安全第一」という言葉が掲げてありました。その思いは私の中に強く刻み込まれています。医療の攻撃性を理解しつつ、安全で誰もが納得できる医療を目指して働いてきました。また、健全で誇り高く働ける職場環境作りも心がけています。心理的安全性という言葉に示されるような、建設的な討論が活発に行われる環境を整えることで、「麻酔科」の能力向上を目指します。

主たる疾患

●手術治療を必要とする全疾患
●手術・検査実施時の麻酔・全身管理
●病棟での重篤な患者さんの循環、呼吸、代謝管理などのサポート

手術中は、日本麻酔学会の勧告する「安全な麻酔のためのモニター指針」に則って絶え間なく患者さんのバイタルサインを監視し、命を守り続けます。

主たる治療

手術時の麻酔管理では、安全でそれぞれの患者さんに最適な麻酔管理を実施します。そのために、手術内容と患者さんの情報を基に、麻酔方法・全身管理を検討し患者さん本人やご家族に説明します。そうして患者さんの納得の上で術後の痛みなどストレスが少ない麻酔法を選択していきます。さらに術後の疼痛管理は、担当診療科の主治医と協力して実施します。

NEWS 03 看護部紹介



看護部長
副病院長 江口 恭世

九州大学病院には、1200名を超える看護職員が在籍しています。高度で専門的な医療を提供するチームの一員として、看護部は人間性を尊重した心のこもった安全で安心できる質の高い看護を提供できるよう日々努力を重ねています。



今年度より看護部長に就任いたしました。歴史ある九州大学病院看護部でこれまで築き上げてきたことを引き継ぎ、そして、より発展し未来へ向けて九州大学病院の看護を創出していけるよう努力してまいります。皆様からの信頼と期待に応え、これからも看護職員が質の高い看護を提供できるよう力を尽くします。どうぞよろしくお願いいたします。

安心・安全な医療を提供するための多職種協働

看護部には専門看護師が7分野10名、認定看護師が17分野34名在籍しており、日々看護の質向上に尽力しています。特に令和4年度からは人工呼吸器を使用する患者さんに対し、医療安全の確保と質の高い呼吸ケアを行うことを目的にクリティカルケア領域の専門・認定看護師や感染管理担当看護師等と臨床工学技士による「人工呼吸管理サポートラウンド」を開始しました。このラウンドでは、実際にベッドサイドで病棟看護師と共に管理状況を確認することで、気管カニューレの固定や適切な加温・加湿の方法、モニターアラーム設定に関する助言を行うことができ、人工呼吸管理を受ける患者さんが安心・安全に治療を受けることに寄与しています。



人工呼吸管理サポートラウンド

地域全体の看護の質向上への支援

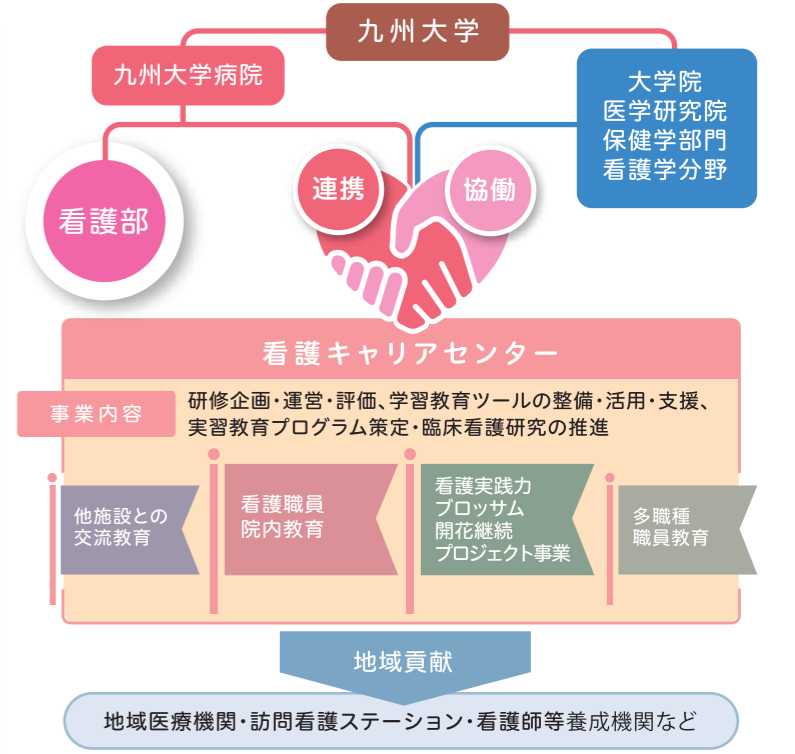
看護部では九州大学医学部保健学部門と連携し、地域全体の看護の質向上に貢献することを目的に看護キャリアセンターを運営しています。看護キャリアセンターでは、地域の看護師を対象に外部新人看護職員育成研修、静脈注射認定看護師育成研修を開催しています。また、院内認定看護師育成研修は院外看護師も受講できる体制にしており、今年度は12名の看護師が院外から受講しています。令和4年には院内認定看護師育成研修を修了した院外看護師に、その後の活動について看護キャリアセンターセミナーで発表していただき、自施設に戻って看護職の育成に貢献されていることがわかりました。



外部新人看護職員育成研修

看護キャリアセンターが地域へ公開している研修やセミナー

- 外部新人看護職員育成研修
感染管理・スキンケア・心肺蘇生法・フィジカルアセスメント（呼吸・循環）
- 静脈注射認定看護師育成研修
静脈注射教育プログラム講義
静脈注射教育プログラム演習
- 院内認定看護師育成研修
◆糖尿病ケア ◆感染管理 ◆褥瘡ケア
◆がん看護 ◆クリティカルケア ◆周術期看護
- 看護キャリアセンターセミナー
平成29年度より開催
令和4年度 看護実践能力向上に向けた活動と今後の展望
令和5年度 看護基礎教育から継続教育に向けて
—効果的な臨床実習指導への取り組み—



今年もNewsweek「World's Best Hospital」に選ばれました！

Newsweekが毎年発表するよい病院の世界ランキング「World's Best Hospitals 2024」で、九州大学病院が日本4位、世界69位にランクインしました！日本の病院ランキングでは、2021年以降、4年連続のTOP5ランク入りとなりました。今後も、地域の皆さまに信頼され、世界からも認められる病院を目指し、安全で質の高い医療の提供に努めていきます。



病院機能評価の認定が更新されました。

九州大学病院は、第三者評価として公益財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価一般病院3<3rdG:Ver.3.0>の4回目の更新審査を令和5年7月に受審し、令和6年3月8日付で認定されました。



今後も「患者さんに満足され、医療人も満足し、医療の発展に貢献する病院を目指します」という理念のもとに、医療の質の向上に努力してまいります。



肥満症治療薬「ウゴービ®」が発売されました。

このたび、肥満症治療薬であるウゴービ®が発売されました。九州大学病院を含む、限られた専門施設でのみ処方可能な薬剤です。一定の基準を満たした患者さんが対象となりますので、ご興味がある方は主治医にご相談ください。

九州大学病院では、複数の診療科や様々な職種と一緒に「肥満症カンファレンス」を行い、患者さんに最適な治療を選んでいきます。今後もさらなる肥満症診療の質向上を目指し、全力を尽くしてまいります。

問い合わせ先 / 092-642-5284 (平日 9:00-16:00)



九州大学病院 肥満症診療チーム

九州大学病院別府病院 市民公開講座を実施しました。



3月より新病院として新たなスタートを切った九州大学別府病院の診療内容を広く知っていただくため、令和6年5月19日(日)に市民公開講座を開催しました。

今回のテーマは「九大別府病院における治療の最前線」で、病院長・外科診療科長の三森功士教授が座長を務め、3つの発表がありました。参加者定員40名に対し申し込み希望が殺到するなど、市民の皆さまの非常に高い関心が寄せられました。

最初に、「みなさまと共に歩む婦人科診療」と題し、婦人科診療科長の園田顕三准教授が、九大別府病院における婦人科の歴史や、再開に至った経緯、今後の診療内容について講演を行いました。がん治療を中心に女性ヘルスケアも取り入れ、具体的な診察・検査として、婦人科診察、細胞診・組織診、経腹・経陰超音

波検査、採血検査(含:腫瘍マーカー)、画像診断:胸部レントゲン、CT検査、MRI検査等を行っていった説明がありました。

次の講演は、内科の藤岡審助教の「大腸内視鏡で大腸ポリープ/大腸がんの早期発見と治療」で、大腸がんの日本人における発生率や死亡率のデータ、検診の重要性のほか、早期発見には大腸内視鏡検査が有効であることについてわかりやすく説明されました。内視鏡治療についても画像や動画を用いて詳細に解説され、粘膜内がんであれば内視鏡治療で根治が期待できることが示されました。

最後に「放射線を使ったがん退治」と題し、放射線科診療科長の平川雅和教授が講演を行い、放射線治療の安全性や有効性、最新の治療装置や検査装置を使用した具体例について紹介しました。九大別府病院では、最新のMRI装置や放射線治療装置を備えており、これらの画像診断によりがんの早期発見・早期治療への貢献ができること、また、高精度放射線治療により、治療効果が高く、副作用が少ない、患者さんのニーズに合ったがん治療の提供が可能になるとの説明がありました。

質疑応答の時間には多くのご質問をいただき、大いに盛り上がりました。今後も市民公開講座は定期的に実施してまいります。



06 九大病院基金へのご寄附のお礼

九州大学病院基金へ多大な貢献をいただきましたことに感謝の意を表し、ご寄附いただいた皆様のご芳名を掲載させていただきます。

寄附者ご芳名

※2023年8月から2024年3月31日までに寄附いただいた方のご芳名を掲載しております(五十音順) 公表を希望されない方は、掲載していません。

■ 個人の皆様

出雲 清恵様 稲吉 君江様 浦田のぞみ様 江嶋 宏美様 太田真祐子様 岡部 崇人様 荻野 良子様
木下 仁様 熊谷 祐貴様 古賀 義徳様 品川 勇様 藤 伸安様 友池 市子様 中湖 博則様
中里 建夫様 中野聖一郎様 榎原 かのる様 新山 明子様 林田 栄子様 福島 立美様 藤井美智子様
堀内 崇様 松原龍一郎様 安田 秀樹様 吉田 尚輝様

■ 企業・団体等の皆様

OI.CAPITAL 株式会社様 一般財団法人恵愛団様 医療法人志方医院様 株式会社相即様

九州大学病院基金はクレジットカードもしくは金融機関からの振り込みでお受けします。

九州大学病院基金HP
<https://www.hosp.kyushu-u.ac.jp/info/kikin/kifuflow/>

